

襟巻きトカゲ

海外で、仕事をする時に現地の人とどのようにコミュニケーションを取るのかは、ビジネスを進める上で非常に大きな問題になる。お互いに価値観の違う世界の中で生活してきたのだから、信頼の絆をどのようにつくり、そして、いかに本音で語り合うかは決して一朝一夕の努力では築き難い。相手も真剣であれば、真剣であるほど、駆け引きばかりでは短時間でよい成果を上げることが出来ない。相手の人間性を理解し、自分の主張をどのように通すかは、お互いが心を割って話が出来るようにならなくては、Win, Win の関係は出来るかも知れないが、時間を越えての信頼関係からの Give and Take の関係は出来ない。

そんなことから、どのようにして、そんな信頼関係を築き上げればよいのかを私なりに考えて、いつも成功していた、必ずしもうまく行くという保証があるわけではないが、努力すべきものとして大切にしてきたのは、日本の古来の伝統文化を彼らに紹介することだと考えてきた。それなりに日本に興味を持ち、日本のことを少しでも理解しようという相手なら、たとえ文化は違っていても、これに注目してもらえらるなら、彼らもまた自分たちの文化を紹介してくれるだろうし、また、それで、うまく行けば息統合もするという期待も持てる。こうして私は、海外での仕事をする時には、日本の文化の紹介もまた、1つの努めのような気がして、私なりに努力をしてきた。

例えば、

尺八は、歴史の非常に長いものであるし、簡単な楽器ではあるが、日本独特の旋律で、情緒溢れるメロディーを味わうことが出来る。これは何時でも話題になる。

そして、日本人の手先の器用さが話題になるのが、折り紙だ。日本では小学生の頃から楽しんでいる折り紙だが、この折り紙には、手先を起用に使うことのほかに、それらしく見せる形状の創造の工夫、時には、ある種の機能さえもたせることが出来る。そんなことから、日本の伝統文化の一つとして私も折り紙に挑戦して来た。子供たちにも喜んでもらえるが、ちょっと複雑なものになれば、大人にも興味を持ってもらえる。奴さんやら、船、兜、飛行機、鶴など、我々にも馴染みが深い。

鶴は、なかなか形の見栄えがよく、また、千羽鶴とすれば、これは、立派な飾り物になる。海外で単身赴任をしている時に、暇に任せてこの鶴を折りつづけ、千羽鶴の飾り物にして、プレゼントしたことがある。中には、我が家の家宝にすると大事に家に飾ってくれた友人も居た。

私にはこだわりがあり、早々簡単には折る事の出来ない作品を作った。それは、1980年代に、日本でもおおはやりになった、オーストラリアの襟巻きトカゲを折り紙で作るというものだ。たまたま、この作品のひとつを手に入れ、どのような手順で居っていけばよいのか、解体をしてその折方を見つけた。この折り紙には、両手、両端、に加えて、尻尾までついており、それに、襟巻きのついた頭と、顎が二つついており、そのために角が四つではなく、八つも必要になるので、どのようなになっているかは、一工夫が必要だ。また、なかなか細かな折方も必要で、1つ居るのに30分近く掛かる。

1つ出来れば、降り方を忘れないように、数十個居り続ける。なかなか根気の要る仕事だ。でも、この折り紙のエリマキトカゲで、オーケストラのイメージを作ったり、あるいは、極力小さなものを作って、これをビンの中にセットしたりと、自分なりの楽しみ方のかんがえ、それに挑戦してきた。このようにして出来たものを、日本の古来の伝統文化だといって、プレゼントすると、海外の人にはとてもめずらしいようで、大変喜ばれ、こんなところから、一度に信頼の絆が生まれる。

襟巻きトカゲの作品をいくつか紹介する



エリマキトカゲ 1つ折るのに
30分くらいかかります。



いろいろな大きさのエリマキトカゲ



エリマキトカゲ オーケストラ



小さなものは 2.5cm 程度です。



もっと、小さく。2.0mm



ウイスキーのボトルの中に飾ってみました。



もっと、小さく。1.5mm 限界

